

平成30年4月11日

平成30年度学校経営方針

港区立芝小学校長

齋藤 幸之介

1 はじめに

本年度、本校は140周年を迎えます。本校は、明治12年、第一学区東京府第二中学区第三十九番公立小学芝学校として設立されました。その後、例えば第二次世界大戦における空襲の被害を受け、また児童数減による存続の危機もありました。しかし、本校を愛する地域の皆様、子供たちを通わせる保護者の皆様の願い、そして本校に在職された諸先輩方の御尽力により、現在では各学年2学級計12学級という規模の学校経営を行えています。もちろん、本校の教育目標及びこれを具体化するための諸活動を受け継ぎつつ、さらなる改善を図っている教職員が責任をもち、また本校の子供たちのために身を粉にして勤務していることが最も大きな要因であることは言うまでもありません。このことを踏まえつつ、よりよい教育活動が行われることを目指していきたいと思います。

また、平成29年3月に告示された学習指導要領については、昨年度を周知の期間とし、本年度から2年間は平成32年度の完全実施に向けて少しずつ主旨に合致した教育活動を展開していくことになります。

一方で、「働き方改革」が叫ばれ、特に学校教育現場における教職員の働き方の改善は急務であるとされます。正直、業務内容が削減されず、ICT等の活用のみでは、この改革は実現されません。さらなる工夫をしていく必要があります。

ここで、私は、本校第27・28代校長であられた榮健先生がかつて学校だよりにお示しになられた”Festina Lente”を確認すべきであると思っています。ラテン語であるこの表現は「ゆっくり いそげ」という意味ではります。私は、これを芝消防署にあることを確認しました。確実にかつ迅速に消火するには、あせらずゆっくりと取り組むことが大切である、という示唆でありました。

教育も急激な変化を求められていますが、しかし、過剰な要求には応えられないというのもまた偽らざるを得ないところです。少し話がずれますが、これから各教科及び各領域の学習活動で目指すべき姿は「主体的、対話的で深い学び」です。これは、今までの問題解決活動をさらに充実したものにせよ、と読み取ることができますが、そのときの条件の一つは「十分な時間を要する」ということです。効率化も図られねばなりません。実は平成10年版学習指導要領で話題になった「内容3割減」は、単に内容が減ると捉えるべきではなく、納得のいく問題解決活動を行う、例えば理科で言えば、観察や実験を十分に行うこと、特に結果→考察の過程で納得ができない場合には再度観察や実験に取り組む、別の言い方をすれば、反証する必要があること、そして、そのためには内容を削った分の時間で補う、という考え方がありました。ですから、子供たちの資質や能力を育成す

するためには、どこかに重点を置いて、まずは「できることからやる」という姿勢を忘れないことではないかと考えています。このことを踏まえ、本年度の本校の学校経営は行われることを忘れないようにしたいと思います。

2 本校が描く学校像

「平成30年度港区立芝小学校学校経営方針」に示しておりますが、子供たちの教育を成立させるためには、地域と保護者、そして学校が三位一体となる必要があることは周知の通りです。私は、以下のように地域の方々や保護者の皆様の思い、そして本校教職員が目指す学校の姿をお示ししたいと思います。

(1) 地域の方々に愛してもらえる学校

4月1日、芝商店街には140周年をお祝いするフラッグが設置されました。これは、芝商店街の皆様が本校PTAの方々とお力添えをいただいております。東京都内にある約1300の小学校の中でこれだけのお力添えをいただいている学校はそうはないと推察されます。現在、本校を卒業をされた方々や地域の方々、かつてPTA活動に大いに携わった方々を中心に周年行事の準備をしてくださっています。

このことをはじめとし、本校は多くの町会及び商店会の方々が様々な場面で本校の教育活動を深く理解し、また御協力をくださっています。いくつもの特色ある教育活動も地域の方々の御尽力のおかげである、と感謝をする次第です。本校は、これからも一層充実した教育活動を行って地域の方々の御理解と御協力をいただき、地域の方々に愛してもらえる学校を目指します。

そのために、教職員が地域に大いに関わっていきたくと考えています。昨年度も、夏季休業中に行っていたらラジオ体操、秋の祭礼、年末年始の餅つきなどにも参加をさせていただきました。また、地域にある商業施設等の方々にも御尽力いただきながら、いくつもの特色ある教育活動を行うことができました。今後共、地域資源を教材化し、また地域の方々にゲストティーチャー等で学習活動に関わっていただけるようにしたいと思います。

(2) 保護者の方々が、子供たちを通わせてよかった、と思っただけの学校

本校には、教育活動を理解し、また教職員に協力をしてくださる保護者がいらっしゃいます。私は、昨年度の卒業式式辞の中で、他校に類を見ない保護者の方々の御理解と御協力についてお話をしました。例えば、後述いたしますが、平成28年度より取り組んでおります学校支援地域本部の活動の一環である遠足や校外学習での引率等のお手伝いをいただきました。急なお願いにもかかわらず、多くの方々に御理解と御協力を賜りましたことに感謝を申し上げたいと思っています。もちろん、PTAの諸活動において御協力いただいていることが教育活動の一層の充実につながっていることは言うまでもありません。

私共は、このことを深く認識し、保護者の皆様の御期待を裏切らずに「芝小学校に子供を通わせてよかった」と思っていただけの学校を目指します。

そのために、私共は保護者の方々に、様々な情報を「正確」「迅速」そして「丁寧」にお伝えするように努力します。また、私共は、保護者の方々と共にあることを念頭に置いて情報交換をしていくようにし、「芝小に協力したい」と思っていたできるようにします。

同時に、私は保護者の方々に「本校の教職員を育てていただきたい」と考えております。教職員に求められる資質や能力の一つは「実践力」ですが、例えば保護者の方々と情報交換や話し合い、その中での御質問や御意見は本校の教職員の実践力を育てることに大いにつながっていきます。どうぞよろしくお願い申し上げます。

(3) 教職員が、教育活動に携わることを通してやりがいを感じられる学校

本校には、以前より脈々と受け継がれてきた教職員の姿があります。その一つが「きめ細やかさ」であります。子供たち一人一人を、ときに複数の教職員が丁寧に観察したり適切に対応したりすることを目指しています。その成果が表れたときに私共は満足し、そしてさらなる工夫や努力をしようとしています。

私は、現在の本校の教職員はこの「きめ細やかさ」を一層重要視して子供たちや保護者の方々に接し、そして課題等を解決しようとしている、と見取っています。そして、このことを踏まえながら、主体性を発揮しながら積極的に教育活動に取り組んでいます。私は、教職員一人一人が自身の姿を振り返り、改めるところは改めながらも子供たちの変容を素直に喜び、これらを通して「芝小学校ややりがいのある職場である」ことを強く意識できる学校を目指します。

そのために、全教職員は、自ら学校経営に参画しようとする意識をもち、また様々な分掌等において協力して行う、という組織的な取組を目指していきます。また、校内研究をはじめとする実践研究を通して教職員自らの資質や能力の向上を図れるようにしてまいります。同時に、自らを律し、サービスの厳正を図れるようにしていきます。

なお、本校は、平成30・31年度、港区教育委員会から研究パイロット校の指定を受け、区立小学校のICT教育の先駆的な実践研究を行うことになりました。2学期以降、子供たち一人一人にタブレットが支給される予定ですが、本校が指定されましたのは、港区教育委員会が本校の教職員の勤務実績を高く評価し、「芝小学校ならばより多くの成果を上げるであろう」と考えたからであります。つまり、本校の教職員の平素の取組が子供たちの教育活動のさらなる改善につながっていることをお伝えいたします。

以上の(1)、(2)、(3)の中心に、学校における子供たちが位置付きます。

(4) 子供たちが、学校に来てうれしい学校

学校は、当然のことながら、子供たちの成長を叶えるための環境です。教育活動を通し

て子供たちは、「学習して楽しい」「考えることが楽しい」ことを味わい、「成長できて楽しい」ことを実感し、そして自信をもって生活できるようになります。また、学校では友達と関わりながら教育活動を行います。

これからの教育活動において、私共は「主体的」「対話的（協働的）」に取り組み、そして学びを深めていく子供の姿を追究していくこととなります。友達と関わりながら、主体的に取り組むことを通して、「なるほど」「そういうことか」「もっとやってみよう」と思い、一人一人が自己肯定感を高められるようにしていきたいと考えています。

なお、子供たちは発達特性、適時性といった観点からすると、私共が思い描いたようには変容してくれない場合があります。様々な失敗があることを受け入れていくことが大切になる、と考えています。(3)に示したように、私共はできうる限りきめ細やかに指導してまいります。様々なことが起こることも御理解いただき、広く受け止めていただきたく、切にお願いをする次第です。

3 教育目標

2を踏まえ、これからおとずれるであろう変化の激しい社会を生き抜くために、私共は学校教育を通して、子供たちに「豊かな人間性」「確かな学力」「健康・体力」という、知・徳・体をバランスよく身に付けさせることが必要です。

以下に示す本校の教育目標は、このことと合致したものとなっています。今後も子供たちの資質や能力を身に付けるために対応できる本校の教育目標を改めて確認します。

- ・やさしい子（豊かな人間性）
- よく考える子（確かな学力）
- ・げんきな子（健康・体力）

本年度は、特に「よく考える子」を重点目標として取り組んでまいります。

4 教育目標を達成するための中期目標と短期目標

教育目標を達成するためには、私共は、3年後を一つの目安とした「中期目標」を設定します。その上で、これらを達成するために、具体的にどのような教育活動等を設定したらよいかを考えて「短期目標」を明らかにし、1年ごとに見直しを図っていきます。

(1) やさしい子

中期目標 自分のよさを肯定的に認めて自信をもてるようにするとともに、友達のよさ、痛みや喜びを認めて互いを尊重し、進んで関わろうとする子供の育成喜びを認めて互いを尊重し、進んで関わろうとする子供の育成を目指します。特に、「いじめは絶対に許さない」ことを中核に据えることとします。

なお、いじめの取組について、昨年度本校での取組が分かりづらい、との御指摘をいただいております。年に3回の「ふれあい月間」や毎月行っている「学校アンケート」を始めとする取組を中心に学校だより等でお知らせをしていきます。また、道徳等の具体的な学習活動を通して指導をする様子もお伝えしたいと思っています。

短期目標 まず、「特別の教科・道徳」を本格実施し、子供たちが「考え、議論する」姿を目指し、自分を見つめ、物事を多面的・多角的に考え、自己の生き方についての考えを深められるようにします。本年度も道徳授業地区公開講座を中心に授業を公開することを通して教職員の道徳についての授業力を向上させます。

続いて、自ら人間関係を深められるように、「なかよし班活動（異学年交流）」や「あいさつ活動」を充実させます。「なかよし班活動」では、互いを「愛おしむ」気持ちを育てるべく、6年生を中心に異学年で行う様々な活動を設定します。本年度は、全校遠足に代わる「なかよし班ロング集会」を行って異学年交流をさらに深めていきます。また、教職員も自ら挨拶する姿を示しながら、子供たちが誰とでも挨拶しできるようにしていきます。

次に、子供たちの情操を一層豊かにするための音楽活動「音楽会」「シンフォニックプラス」「ミニコンサート」に力を入れていきます。今年度は、2学期末に音楽会を行い、平素の音楽科学習の成果を披露します。また、4年生以上の希望者が集まって行うシンフォニックプラスは地域行事等にも参加することを通して演奏する喜びを味わってまいります。ミニコンサートも様々な楽器演奏を発表する場として位置付けています。

「人権集会」では、各学級で標語を作って発表してお互いの考えのよさを学び、またこれらを具体的な目標として取り組んで人権感覚を養っていきます。

その他、地域の花店からの御協力を得ながら、花を生けることを通しておもてなしの気持ちを育てる「花育」、子供たちが地域の一員であることを強く自覚して環境を自ら整えようとする心情を育てる「地域清掃」などを行っていきます。子供たちにとって地域の方々やPTAの方々の御尽力によって行われる「芝っ子まつり」は、子供たちの心をととても豊かにかつ温かくしてくれています。

(2) よく考える子

中期目標 知識や技能を確実に習得するとともに、友達と関わりながら問題を見い出してこれを解決する活動を通して思考力や判断力、表現力を身に付け、自ら概念を獲得したり自分の考えを深めたり広げたりする子供を育成します。平素からの取組が、例えば夏休みの自由研究に生かされることをも目指しています。

短期目標 まず、「国語科における言語活動「話す・聞く」」を学習の中核に据えていきます。これからは、「対話的な学び」、つまり子供たちが、友達とのかかわりを通して多くの情報を得たり相手に伝えようと自分が伝えたりすることを通して、自分の考えをより確かなものにするなどの学びの深まりを目指していきます。言葉を用いて対話をするわけですので、国語科を中心に据えながら、その他の教科等で活用できるようにしていきます。

続いて、「研究パイロット校」の指定を受けたことについて御説明をします。本校では、平成30・31年度、港区教育委員会より指定を受け、主にICT教育の研究を行っていきます。例えば、2学期には本区立小学校の先陣を切って、本校全員に「タブレット」が配付されます。「対話的な学び」はもちろんのこと、データの検索や収集などの多様な活用を実現させていきます。

また、基礎的な知識や技能を習得させるために、火・木・金曜日の昼休み終了後の15分間で漢字や計算を中心に行う「モジュール学習」を設定しました。この学習を行うことにより、平素の時間割に位置付く教科等の学習を「問題解決活動」中心に行うことができます。このことは、例えば中期目標にある夏休みの自由研究に大いに生かされることとなります。

その他、理数教育の充実の一環として行う「算数少人数習熟度別指導（3～6年生）」、自ら探究する意欲を高めたり心情を豊かにしたりするための「読書活動の充実」、我が国の文化の一つに挑戦する「漢字検定」（希望者）などを組み入れていきます。もちろん、「地域素材の教材化」「体験的な活動をはじめとする多様な学習活動の設定」なども積極的に行っていきます。

なお、引き続き「国際科」の充実に努めてまいります。また、「国際科発表会」については、この学習の成果を踏まえながら、諸事情を鑑み、数回の土曜日授業に分けて行うようにしていきます。

(3) げんきな子

中期目標 自分の健康や成長に関心を持ち、自ら体力の向上や健康の保持・増進に努めて生き生きと活動できる子供の育成を目指していきます。

短期目標 本校の子供たちは、体を動かすことを好んでいます。この点を子供たちのよきと捉え、さらにたくましさを身に付けるためにいくつかの手立てを講じていきます。

まず、平素の体育科学習の充実を図っていきます。子供たちが健康の増進と体力の向上を目指して進んで運動に親しむために、「体育科学習の一層の充実」を図ります。校内での研修等を通して体育科学習のあり方を学び、子供

たちが主体的に取り組めるための工夫を行えるようにします。

次に、「体育朝会」を充実させます。例えば、縄跳び（短縄、長縄）やマラソンを組み入れ、カード等を活用しながら子供たちが目標をもって取り組めるようにしていきます。体育科学習と関連させてさらなる充実を図ります。

また、「運動会」については、例年行っている種目等を踏まえながら、例えば、短距離走では一定の距離をリズムカルにかつ最後まで思い切り走ることを目指し、体育科学習で培った技能を確実に生かせるようにしていきます。

「食育」については、学級活動や高学年の家庭科学習と関連させながら、「おはしの日」「カミカミデー」「おなかすっきりおそうじデー」「世界の料理」といったテーマに則った献立を作成し、給食を提供していきます。

5 教育目標の達成を保障するための諸条件の整備

教育目標を達成するためには、諸条件を整える必要があります。

そこで、以下の点に重点を置き、地域の方々やPTAの皆様、そして港区教育委員会の御協力を得ながら取り組んでまいります。

- (1) 「祝う会」やPTAとの連携による140周年記念行事等の準備
- (2) 学校支援地域本部の活用（玄関装飾、モジュール学習における人材・遠足ボランティア・図書ボランティア等の募集 その他）
- (3) 時間割の変更（モジュール学習時間の設定（13:25～13:40、火・木・金）
→漢字、算数等の技能の定着
- (4) 行事の改善（国際科発表会の開催日の分散（土曜日授業））
- (5) 一人一人の実態や適性に応じた支援の充実（特別支援教室、カウンセリングの一層の充実）
- (6) カリキュラム・マネジメント（複数の教科を一緒に扱ったり、関連を持たせたりすること、地域に開かれた学校を目指して）
- (7) ICT教育の充実に向けた環境整備（タブレットの活用に向けて、など）
- (8) 芝小スタンダード（生活規律等の確立）

(10) いじめ防止基本方針

(11) 複数教員での対応

(12) 一層確実なアレルギー対応

(13) 幼・小中一貫教育（三田アカデミー）